

# 高木康平氏 J I C A 報告会

9月29日18時から日南町林業総合センターにて、高木康平氏による J I C A 報告会を行いました。

J I C A とは、発展途上国が抱える課題を解決する支援を行う国際的な団体です。

以前は日南町の役場で勤務をしていた高木氏は、平成24年から約2年間、ソロモン諸島第一陣として森林省に配属され、現地で森林活動を行いました。

ソロモン諸島での生活・文化・林業の違いなどのお話を伺いました。

ソロモン諸島は、オーストラリアの東側ニューギニア北に位置する複数の島からなり、総面積28,450km<sup>2</sup>で、人口523,000人の規模の国です。

太平洋戦争では日本統治の経緯もあり、ガダルカナル島の激戦などで記憶のある方もあります。その戦争時の大砲や飛行場などが現在も残っています。食生活は質素、経済格差がとても大きく、主な産業は木材・コプラ・パーム油などがあります。

その中で木材（林業）はとても不人気の職業らしく、生活・文化・仕事の考え方の違いから、最初は思うようにプロジェクトは進まず、とても悩みました。

赴任して半年間は問題抽出作業を行いました。林業作業をする上で必要な図面や台帳の基礎情報が未整備であり、苗木の物価が高いことから植林の拡大スピードが遅い。ちゃんとした道具もないので、管理・伐採するシステムがないという状況でした。また、土壌がラテライト（粘土質）なので、水はけが悪く、乾燥すると固い道になるのですが、雨が降るとトラックなどを運行させるのは困難になるので、思うように伐採が進まないということもありました。



赴任して半年後からは問題解決への試行錯誤のはじまりでした。苗木の物価が高いということなので個人苗畑を普及させよう取り組みましたが、ワークショップを行っても、参加する方はいませんでした。既存の林業会社（天然林伐採）による人工林伐採作業を頼んでみたところ、作業規模が大きく採算に合わないということで断られ、植林の管理組合を組織しようと思いついたのですが、対象地への嫉妬があることから選定が困難であったなど、苦勞の連続でした。

しかし試行錯誤する中、GISでの測量作業を地元の人でも出来るようなシステムをつくり、今後の作業を現地の人達の力で進めていけるように構築することが出来ました。この作業で未整備だった図面や台帳を整理することが出来るので、今後の林業作業もスムーズに行えることでしょう。



赴任中に、学校にも足を運びました。ソロモンの学校教育の問題点は、座学中心で実験器材がない。教師も実験方法がわからないということでした。

環境問題に関わる隊員で授業をすることを提案し、理科の教師が複数の木片が固定している二酸化炭素の量を計算してみようという模擬授業を行いました。生徒からもわかりやすいという声があり、評判がよかったです。

赴任して感じたことは、熱帯樹木は成長が速いが、必要な労働量、収穫量は日本と同程度ということがわかった。

天然林伐採では、広大な面積が伐採され、希少な生態系が壊されていた。

更に、標高400m以上の土地は自然保護区のような形にされている為、伐採制限があるが、天然林の枯渇から、高標高知の伐採制限が緩和されつつある。

林業は木材生産のための土地利用であり、林業は結果として多くの天然林を保全することに繋がるので、ソロモンのように天然林を伐採し続けていると多くの自然を壊してしまう結果になる。

環境問題が重要視される昨今ですが、経済を最優先にした上で環境問題の保護とシステムを考えていかなければ、人は動かないと感じました。

日南町で学んだ林業の知識を活かして、遠い南の国へ青年海外協力隊として旅立たれた高木さん。世界で活躍をされて更に新しい事を学んでいただいて、そしてその経験を日南町に伝えていただければいいですね。今後も彼の活躍に期待しましょう。

